

【地域活性化総合特区】千年の草原の継承と創造的活用総合特区

[阿蘇市、南小国町、小国町、産山村、高森町、南阿蘇村、西原村、山都町]

①特区の主な目標

地域の誇りである「阿蘇の草原」の魅力と価値を次世代に伝えていくとともに、草原の新たな活用を進め、草原とつながる観光スタイルの創造と資金還流の仕組みづくりによる地域の活性化を目指す。⇒「阿蘇の草原」の保全と活用

②課題（背景）

- 「阿蘇の草原」の維持管理の担い手の減少による草原の面積減少や荒廃に伴う草原維持の抑制。
- 平成28年熊本地震からの復旧を早急に進めるとともに、草原につながる観光スタイルの創造などの方策を取りながら草原の維持・保全を図ることが必要。

③主な事業

○草原維持管理作業効率化

- ・野焼きボランティア派遣を継続しながら、支援体制を強化していくとともに、野焼きの継続や支援の障がいとなる安全対策の強化等を併せて実施している。

○草原維持管理費費用調整

- ・「阿蘇草原再生募金」の活用により、繁殖あか牛導入助成・野焼き再開支援・野焼きボランティア派遣等の事業を実施している。

○草原由来製品の販売拡大

- ・草原を利用した農畜製品を取り扱う飲食店や直売所等の拡大を図るために、「あか牛肉料理認定店」制度を設立し、「阿蘇のあか牛」のブランド化を推進している。

④特区における効果

- 熊本地震の影響もあり、数値目標の抑制が図れない事実があるものの、平成28年に「草千里」の野焼きを50年ぶりに実施したことや、野焼きを再開する牧野組合が増加している。
- 「阿蘇草原再生協議会」のもとに設置されたテーマ別の小委員会が、それぞれの機能を果たし、効果的・効率的な運営や事業展開を図っており、草原再生活動に大きく寄与している。
- 「阿蘇のあか牛」のブランド化を推進することで、地産地消や観光消費対策としての消費拡大を図ることができ、生産者の所得向上にもつながっている。

草原(自然環境)の維持・活用



阿蘇の“野焼き”

野焼きボランティア

観光消費や食料生産基盤の確保



阿蘇の“あか牛”

ガイド育成



阿蘇の草原の風景